



100年いきる 大学教育

長期的視点に基づく教育

グループB

報告者 山田

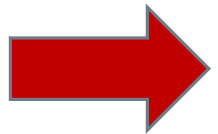
メンバー 五十嵐、伊藤、岸本、中元(五十音順)

目次

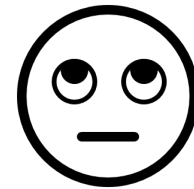
- 1 関西大学の目指すべき姿
- 2 より良い関西大学にするには
- 3 まとめ

関西大学の目指すべき姿を定めるにあたり

「長い将来必要とされる力は何か？」



AIの普及に注目



AIの普及で定型業務はなくなる

・「米マッキンゼー・アンド・カンパニーは

日本で将来的にAIやロボットに代替される可能性がある雇用の割合が、56%と試算。」

・銀行業界での人員削減

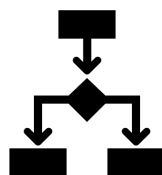
「デジタル技術による効率化などにより、単純合算で3.2万人分に上の業務量を減らす。」

「新常態「その仕事、AIで」 定型業務の求人30%減」『日経新聞』 2020年7月19日朝刊

「3銀行大リストラ時代 3.2万人分業務削減へ」『日経新聞』 2017年10月28日朝刊

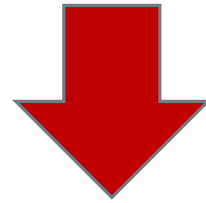
これから残る仕事

「状況によって柔軟に対応しなければならない仕事」



将来必要な力

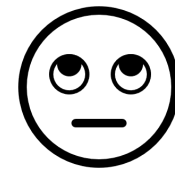
状況に合わせて順序だてて結論を出す力



「自分で考える力」

今の大学では

学生が「自分で考える力」を身につけることができるのか？



専門科目ではある程度力がついている

授業に出席し、ゼミやレポートに取り組むことによって専門科目で順序だてて考えられるようになっている。

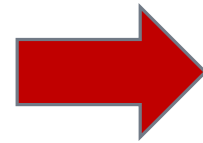


実社会で
大学で培った考える力を活かしているのか？



学生は 学問で培った考える力を活かせていない

学問



実社会

勉強していく中で考える手順が**無意識**に身についている。

(ex) レポート提出で単位取得



学問で**意識的**に考える手順を踏んでいないため、
実社会でどのように考えたらいいかわからない

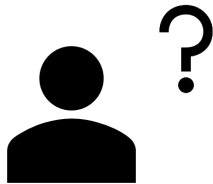
(ex) アイデア出しのみの会議



考える力を活かせていないことによりおこる 大学の現状

- ・授業に見切りをつけて、資格の勉強、居眠り、その他授業に関係ないことを行う。

→専門科目ですら考える力のない学生が生まれる



- ・学問の中でしか考える力を発揮できずに卒業

→大学で学んだことを言えない



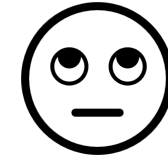
関西大学の目指すべき姿

「実社会でも通用する自分で考える力」
を修得できる大学



では

どのようにして
関西大学の目指すべき姿に向かうのか？



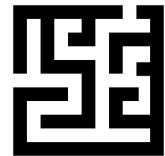
新たに授業を増やす



目指すべき姿に向かうには

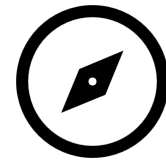
「思考の型を身につけることに特化した授業」

が必要



思考の型とは

物事を考える際の地図



効果

- どのような対象でも順序だてて考えられる
- 思考にモレやダブリが少なくなる

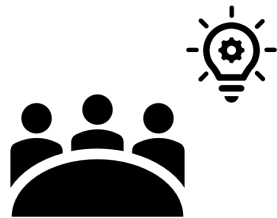
思考の型がない場合

思い付きのアイデア勝負 ヒットする確率は低い

「新入生を多く勧誘したい」



アイデアを出し合う



ビラ配りの人数を増やすのはどうか とりあえずビラを配れば新入生来てくれる！



認知度が元々ある場合、
本当に有効な策なのか？

= 思考に漏れがある

思考の型がある場合

合理的で効率的 最適な解決策を導き出すことが可能

「新入生を多く勧誘したい」



1 人の行動パターン分析 AIDMA （名称 アイドマ 思考の型の一つ）

①Attention 認知 新入生が自分たちのサークルを知る

②Interest 興味 サークルの活動に興味を持つ

③Desire 欲求 入部したくなる

④Memory 記憶 入部の方法を覚えている

⑤Action 行動 実際に入部する



AIDMAで流れを把握した後の分析

2 原因特定

(ex)

Attention サークルの存在を知られていないのか？

Interest マイナーな競技をしているから興味を持ってくれないのか？

など

3 解決策の模索

原因を基にどうすれば新入生が来てくれるのかアイデアを出し合う

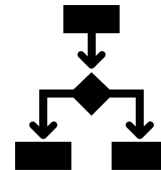
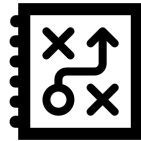
思考の型のメリットのまとめ

初めての事象でも

- ・順序だてて考えられる
- ・思考にモレやダブリが少なくなる



状況に合わせて最適な結論を導き出すことができる



就職活動でも重要視される「考える力」

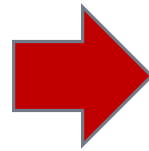
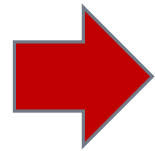
コンピテンシーレベル表

レベル5	起業家的行動	自ら価値を創出する、ユニークな行動。自ら組織をつくる(あるいはネットワークを構築する)
レベル4	創造行動	独自のユニークな分析や工夫によって、現状の問題点を実効的に克服する行動
レベル3	能動行動	明確な意図や理由に基づいて行う行動
レベル2	通常行動	組織や業界の中で行うべきとされることを実践する行動
レベル1	受動行動	他者から言われたことをそのまま実践する行動

参考 コンピテンシー面接マニュアル (川上真史他)

授業の運営方法

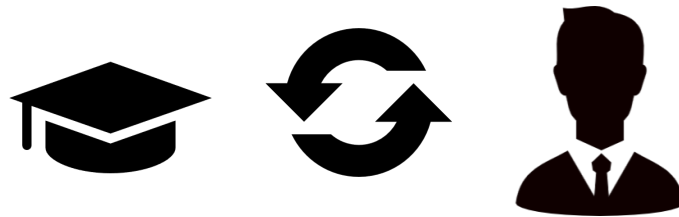
- 1 思考の型を生徒が使えるようにする授業を開講
 - 2 効果の検証
- + a 学問・実社会での実践



1 思考の型を生徒が使えるようにする授業

授業目標

- 1 思考の型を学ぶ
- 2 思考の型を学問とキャリアの両方に応用できるようにする



1 思考の型を生徒が使えるようにする授業

授業形式

アクティブラーニング



授業内容

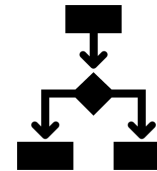
- ・問題解決型の課題、パラダイム批判型の課題を提示し議論
- ・キャリア教育

2 効果の検証

授業の最終回

課題：レポート提出

→思考の型に沿って書けているかを検証



授業後

キャリアやほかの学問に応用することができるかの検証

(ex)履修者のGPAの変化、就職活動の満足度

+a 学問・実社会での実践

実践先の例

- ・アルバイト
 - ・キャリアセンター主催のインターンシップ
 - ・その他の授業
- など



まとめ

これからの時代は「**自分で考える力**」が必要



関西大学は「**実社会でも自分で考えられる人材**」を育てるべき

そのために**思考の型**を身につける授業が必要



この授業を通して

自分で考える力がつく



社会でも活躍することができる



ご清聴ありがとうございました